
※既提出資料からの修正箇所は黄ハッチ又は黄枠で示す。

敦賀発電所2号炉
新規制基準適合に係る現地調査
(K断層の連続性評価に係るボーリングコア等の確認)

資料連-1
(当日修正箇所抜粋)

令和6年6月6, 7日
日本原子力発電株式会社

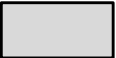
5. コメント一覧

No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答骨子もしくは回答時期 (資料提出時期)
1210-7	令和5年 12月8日	第1210回	K断層の南方 への連続性 評価(連続性 評価基準)	ふげん道路ピット東法面(上段)の⑦のせん断面については、堆積層中で傾斜が逆転しているため、正断層センスになると考えられる。今後議論するK断層の連続性の評価の際には、同じ断層でも、確認箇所によっては局所的に走向・傾斜、変位センスが異なる場合もあることも踏まえて説明すること。	7月中旬

令和5年12月14,15日 第1回現地調査コメント

No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答骨子もしくは回答時期 (資料提出時期)
現地調査-24	令和5年 12月14,15日	第1回 現地調査	K断層の連続 性評価	K断層の連続性評価の資料についても, これまでの審査コメ ントを踏まえ充実化を行うこと。	第1239回審査会合にてご説明

凡例



:説明済のコメント

令和6年2月9日 第1225回審査会合コメント

第1256回審査会合
資料1-2 修正

No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答骨子もしくは回答時期 (資料提出時期)
1225-5	令和6年 2月9日	第1225回	スケジュール 及び手順	今後の審査会合の進め方に関し、次回審査会合は、K断層の活動性に係る未回答の指摘事項への回答及びK断層の連続性についての確認、議論をする。	第1239回審査会合にてご説明
1225-6	令和6年 2月9日	第1225回	スケジュール 及び手順	今後の審査会合の進め方に関し、次回審査会合後は、K断層の連続性に係る地質データの事前の確認を目的とした現地確認を実施する。	以下の通り現地確認を実施 ボーリングコア:4月17, 18日 薄片試料:4月25日

令和6年3月22日 第1239回審査会合コメント

第1256回審査会合
資料1-2 修正

No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答骨子もしくは回答時期 (資料提出時期)
1239-1	令和6年 3月22日	第1239回	スケジュール 及び手順	K断層の連続性に関連して、K断層の連続性評価に用いられた計14孔のボーリングコア及び鉤物脈の評価に用いられた薄片等のデータについて、事務方による現地確認を4月中に予定している。また、最新活動面と鉤物脈との切り合い関係に関し、検討対象としている断層の破碎部の薄片等のデータについて現地確認の際に合わせて確認する。	以下の通り現地確認を実施 ボーリングコア:4月17, 18日 薄片試料:4月25日
1239-2	令和6年 3月22日	第1239回	スケジュール 及び手順	次回審査会合では、事業者が5月まで回答するとしているK断層の活動性に係る全ての指摘事項、及び本日の会合で議論したK断層の活動性及び連続性に係る指摘事項の回答について議論を予定している。なお、本日の会合で議論した指摘事項の回答については、活動性評価を優先して回答し、連続性評価については優先順位を考慮して回答すること。	活動性評価: 第1256回審査会合にてご説明 連続性評価: 6月下旬及び7月中旬
1239-7	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の南方 への連続性 評価(連続性 評価基準)	敷地の破碎帯の連続性評価基準(幾何学的位置関係及び走向・傾斜の類似性)を用いてK断層の南方への連続性を評価するにあたって、評価基準の根拠としているデータは、K断層ではない他の破碎帯を対象とし、また、その取得場所は、K断層が認められるD-1トレンチ内ではなく、2号炉基礎掘削面や1号炉原子炉建屋南方斜面であり、当該データとK断層との類似性の判断及び連続性の評価に適用できる根拠が示されていないことから、当該基準をK断層の連続性評価に用いることができるとする科学的・技術的な根拠を再度説明すること。	7月中旬
1239-8	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の南方 への連続性 評価(連続性 評価基準)	敷地の破碎帯の連続性評価基準(走向・傾斜の類似性)を用いてK断層の南方への連続性を評価するにあたって、走向・傾斜の差が±20°以内と設定しているが、D-1トレンチ内のK断層は当該評価基準の範囲外のものが多数認められることから、設定値が妥当とする科学的・技術的な根拠を再度説明すること。	7月中旬
1239-9	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の南方 への連続性 評価(連続性 評価基準)	敷地の破碎帯の連続性評価基準(破碎部の性状の類似性)を用いてK断層の南方への連続性を評価するにあたって、D-1トレンチ内のK断層のデータ、特徴を踏まえずに設定されていることから、当該評価基準が妥当とする科学的・技術的な根拠を再度説明すること。	7月中旬

令和6年3月22日 第1239回審査会合コメント

第1256回審査会合
資料1-2 修正

No.	日付	回次	区分	コメント内容	回答骨子もしくは回答時期 (資料提出時期)
1239-10	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の南方 への連続性 評価(鉱物脈 法に基づく検 討)	XRD分析について、検討対象としている断層の7箇所の破砕部のうち3箇所で行われているが、対象とした破砕部すべての分析結果を示すこと。	7月中旬
1239-11	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の南方 への連続性 評価(鉱物脈 法に基づく検 討)	XRD分析について、生成温度が比較的高い雲母粘土鉱物、カオリナイトについては、いずれも「微量」以下の検出又は不検出であること、また、母岩の風化部でも同程度の検出であるため破砕部特有のものとはいえないことから、対象とした破砕部が後期更新世以前の古い時代の熱水変質作用を受けているとする根拠を再度説明すること。	7月中旬
1239-12	令和6年 3月22日	第1239回	K断層の南方 への連続性 評価(鉱物脈 法に基づく検 討)	長石類のEPMA分析(斜長石の曹長石化)については、検討対象としている断層の破砕部やその近傍で行われておらず、母岩等で分析したものであるため、分析位置が適切でないこと、また、変質の程度が弱い試料(新鮮岩)でも曹長石が比較的多く認められており、曹長石が検討対象としている断層の破砕部やその近傍だけで認められていることが確認できていないことから、対象とした破砕部が熱水変質作用を受けたとする根拠を再度説明すること。	7月中旬

余白